ezorockは自己との対話

リーダーは誰よりも活動を楽しんでいる人

できるかできないじゃなくて、
やるかやるかやで

ただ、鎧は脱げるようにしておく。
背伸びは大事。

たまの100点じゃなくて、
毎回60点を出すのが大事

主体的であれ。
ただし人の主体性を奪ってはいけない

いつものつながりが、
いざという時の力に

やると決めたことですから

ezorockのゆーみんから個人のゆーみんとして
認識してもらえるようになった気がして嬉しい

あと、楽しいです笑

ちょっと油断した時に何かが起きたり。
失敗する悔しさが多い分、成長もできます。

若いうちに自分の限界を決めて
挑戦しない癖は作らない方がいい

お前が楽しんでて、それが何なの？

最初は「この人たち誰？」みたいな感じだった
けど、1年くらい続けてから、徐々に「あ、また来て
くれたんだね」っていうふうに変わってきて

ezorockの ターニングポイントになった言葉たち

何でそんなに病みつきになってるの？
また今年も来てる理由はあるの？

ちゃんと話さないと人は動かないんだ

震災後、こんなに会っている人は
他にいない。友だちよりも会ってる。

ボランティアってキラキラした
印象だったけど、普通に悩みながら
やってるんだと思った

「やってみる」のきっかけは何でもいいんだよ

**そのままだと、お前の人生、
一生ごみ拾いだぞ。**

老兵は死なず
ただ消え去るのみ
みんなありがとう!!

自分の意見を
いうことは
おかしくないんだ
って気づいた

みんな本気なんだなって思った。

それを見たら、おれらも地域もまだやれることあるなって思った。

活動っていうのは
皆迷惑かけ合うと
思うんだ

何分別ならいいんだ。

それは社会を変えたいの？それとも自分だけでいいの？
ん？それじゃ、こっち（自然体験）の世界へようこそ

次
いつくる？

**でも、成長のスピードは
失敗して覚えた方が早い**

自分が変われたらいいな
っていう思いで突っ走ってきた

エゾロックは失敗してもいいけど、
失敗したくないって意地を張る場所

本当にやりたいことがあるなら10000時間やってみろ。
その道を極められるかはそれだけやり込まないとわからない。

思い返すと本来の目的じゃなかったところで影響されて、
今の自分になったっていうところがある

来年残って来年の人にSQのやり方引き継がないと活動なくなるよ

北海道のことは、北海道の人の手できれいにするべきじゃないか

名言の詳細は
Webサイトにて▼

これまでの人生で考えもしなかった価値観と出会って、
プラスからマイナスまでいろんな感情を味わって、自分を見つめ直した場所

マイノリティーな
集団でありたい

リーダーの視点がない人にこそ、
リーダーをやってもらったほうがいい

関われるスキがある

好きになったから関わるのではなく、関わるうちに好きになっていった。
その場や、地域に好きな人ができ、自らの役割を見出した瞬間が大切

ezorockはできることを広げる場

やりたくなくて
やってる人はいない

うるせぇ

ezorockは来場者と主催者の
橋渡し役になれる

周りがバイトとかで稼いでいたとしても、
自分らは活動通して同じくらい貴重な経験が出来ていると思う。

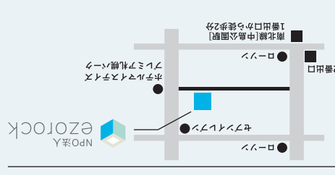
いいかい、ロックキッズ達。
夏は遠いと思っててもすぐにやってくるんだぜ。

NPO法人 ezorock の歴史特別号 vol.36 2022.3

Rock The Life! ezorock

本ニュースレターは合同会社Dialogderの協賛で制作しています。

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7
TEL/FAX 011-562-0081 E-mail info@ezorock.org
WEB https://www.ezorock.org/
@ezorock @ezorock @ezorock



「活動の成果と青年層の成長の両輪」

ezorock設立から2021年4月で20年となりました。野外ロッククエスの環境対策活動から設立した団体が、今ではこどもや環境の分野だけではなく、都市交通やチェルノボイル・エネルギーまでいろいろなものまでを北海道内の社会課題に取り組む団体へと変化してきました。野外ロッククエスの会場はこどもの水汚れ探でなく環境にたり、また、これまでこどなかりがあったこどもたちが受講生として参加した。ezorockは、これまでを〈のパートナーとともに事業を進めてきました。パートナーは企業になる時もあります。パートナーのみなさんにはezorockのりあげます。また、この20年でを〈の青年層がさまざまな活動に参加し、社会課題の解決に全力で取り組んできたezorockの活動を経て、NPOでの引き続き活動を続ける者・行政で奮闘する者、企業に勤めながらボランティアに関わる者など…。ezorockでの経験はすべて社会に還元されるものであるはずだと、10年、20年の長いスパンで見ていく必要があると思います。ezorockでは、この「活動の成果」と「青年層の成長」の両輪が重要だと考えています。これからもこの両輪を回し、北海道をROCKする(=揺り動かす)団体として活動をしていければと思います。

ezorockスタッフ一同

RISINGezorockの始まりは2000年。RSR会場のこみ分別ブケゲートが始まりました。初めてこの網の中にオテンテイアがスンで楽しそうにチケーして いる姿を見た時ひろくりしました。もう20年続けているこのみなの問題以外にも様々な社会的問題を向き合っていて、何か問題でどうすれば解決出来るか。いってもけ気」を持ってトイしている姿勢はまさにRESPECTです。

若林良三 / 株式会社ウエスト常務取締役

2021年の夏、コイジンが無い夏を2年連続を過ごそうかという時にロッケキッが開催。畑は多忙を極めていたけれど、出店要請に二つ返事で参加。お目当てのBISHはコロナで欠場も、代わりのEMPIREがーー生懸命歌い、スターシいつばいのパフォーマンス。あ、ワーテイスト観客の一体感。毎年求めていたのはこれだったか。そんな夏をこれからもみんなと創り上げていきたい。

小林卓也 / はるちちーガニックフーム

自分が社会人になって2年目の夏、皆さんと出会い、この20年でいろいろな活動をこー緒してきました。時には皆さんのパワーや個性、そのる様性に震撼し、時には性感励ずることもありました。ご一緒した一人一人から、様々な刺激をいただき、今の自分の大切な糧になっています。様々な人にとっての糧を生み出し続けるezorockに期待しています。

山本泰志 / 公益財団法人北海道環境財団

別活動のて協力に始まり、被災地への救援物資、Xは保存食としての乾燥野菜を推進する活動をサポートして頂いております。これからも若い人達の活力を頂きながら、わくわくする活動をご一緒出来ればと願っております。

日向寺良子 / 盈川商工会

つながりをつくることができた。クルーや自転車イベントスタッフとの本気のコミュニケーション。私にミライを実感させてくれた。実に楽しい日々でした。みんなを人を大人になったのかな？いつの日かまた会えたら嬉しいな。

澤芳隆 / 株式会社ドーコン交通事業本部副本部長

市ロクルたezorockが強い関わりを持つようになっておよそ12年。市ロクルが立ち上げ当初の私は既に40過ぎのおじさんでしたが、ezorockの若者たちと沢山のつながりをつくることができた。クルーや自転車イベントスタッフとの本気のコミュニケーション。私に ミライを実感させてくれた。実に楽しい日々でした。みんなを人を大人になったのかな？いつの日かまた会えたら嬉しいな。

金子正美 / 酪農学園大学教授
NPO法人北海道市民環境ネットワーク理事長

環境保全・地域活性を行うNPOとは異なり、それらを行うことで、社会を動かす若者を育てようという点がezorockらしさです。似て非なるもの…そこを強調して説明するとえ、そうなの？と驚きとともにほぼ全ての人が寄いていきます。まに人を育てているなあ～と思っています。星非ともRSRの原点を忘れずに進化/深化してほしい。

山中康裕 / 北海道大学教授

クルトラマンは、光の国からやってきて、自慢のジェットで敵を討ち、ほくらのために、正義のために、地球のために戦いました。子供たちは誰もが地球防衛軍にいり、地球を守りたいと思っていました。ezorockは、誰のために、何のために、何処のために戦いますか？ezorockは地球を守れますか？僕らのヒーロー、ezorockになって欲しいと思います。

金子正美 / 酪農学園大学教授
NPO法人北海道市民環境ネットワーク理事長

ezorockに魅力は「人育ち」ところにあります。自分が関わる社会の課題に真摯に向き合うezorock出身の若者にこれまで何度も出会いました。NPOが果たす社会的な役割の一つが「市民性の育成機能」であり、ezorockが20年間で大きく果たしてきた役割だったと思います。魅力的な若者が輩出されるezorockのこれからに期待しています。

宮森光 / NPO法人北海道NPOサポートセンター

大学生だった僕くたちは、あの日、ボランティア説明会の資料を作っていた。そわそわ完成っていう時に、タクッが言った。「持ち物の欄に、愛っていけたいな」。いやいや、どうした。「愛と、再員と、水筒と」。あの夜はよくわんなかったけど、20年経って、毎朝、愛を忘れないように家を出る度くがいる。どこかの先れかに、きっと、届いてる。じわじわと、時間をかけて、届いて。

上野恭平 / ラジオデイズラボー

草野さんと初めて会話をした時、会った早々に「僕、地球のえいのが好きなんです」と言われ、そこからの会話をどう続けたら良いものか若干の迷いを感じたあの頃が懐かしいです。気がつけば、ezorockというが自然学校が出会ったときからずっと自分の人生を決めてしまった若者たちのなんと多いことか。その責任は重たい感じつつも、それ以上に楽しみでなりません。「僕、チキューー好きなんですよね」と言い出す次の若者に出会えることを期待しています。

上田隆 / NPO法人いぶり自然学校代表理事

市ロクルたezorockが強い関わりを持つようになっておよそ12年。市ロクルが立ち上げ当初の私は既に40過ぎのおじさんでしたが、ezorockの若者たちと沢山のつながりをつくることができた。クルーや自転車イベントスタッフとの本気のコミュニケーション。私に ミライを実感させてくれた。実に楽しい日々でした。みんなを人を大人になったのかな？いつの日かまた会えたら嬉しいな。

もんじい

常さんとの関りは、草野代表が未だ学生さんらいう雰囲気の時の出会いが始まりで、かれこれ15年以上になります。遠川地区秋祭りでのこどもの分別活動のて協力に始まり、被災地への救援物資、Xは保存食としての乾燥野菜を推進する活動をサポートして頂いております。これからも若い人達の活力を頂きながら、わくわくする活動をこ一緒出来ればと願っております。

山中康裕 / 北海道大学教授

真法人との出会いは丘木「イチイの木」の健康診断がスタートで。振り返ると「こんなお願いしたら迷惑でですか」「いいですね」「やってみましょう」そんな会話をおとしいきーとでいスたけどですが、今では笑顔ってくれています。ありがとうイチの木、ありがとう皆さん。

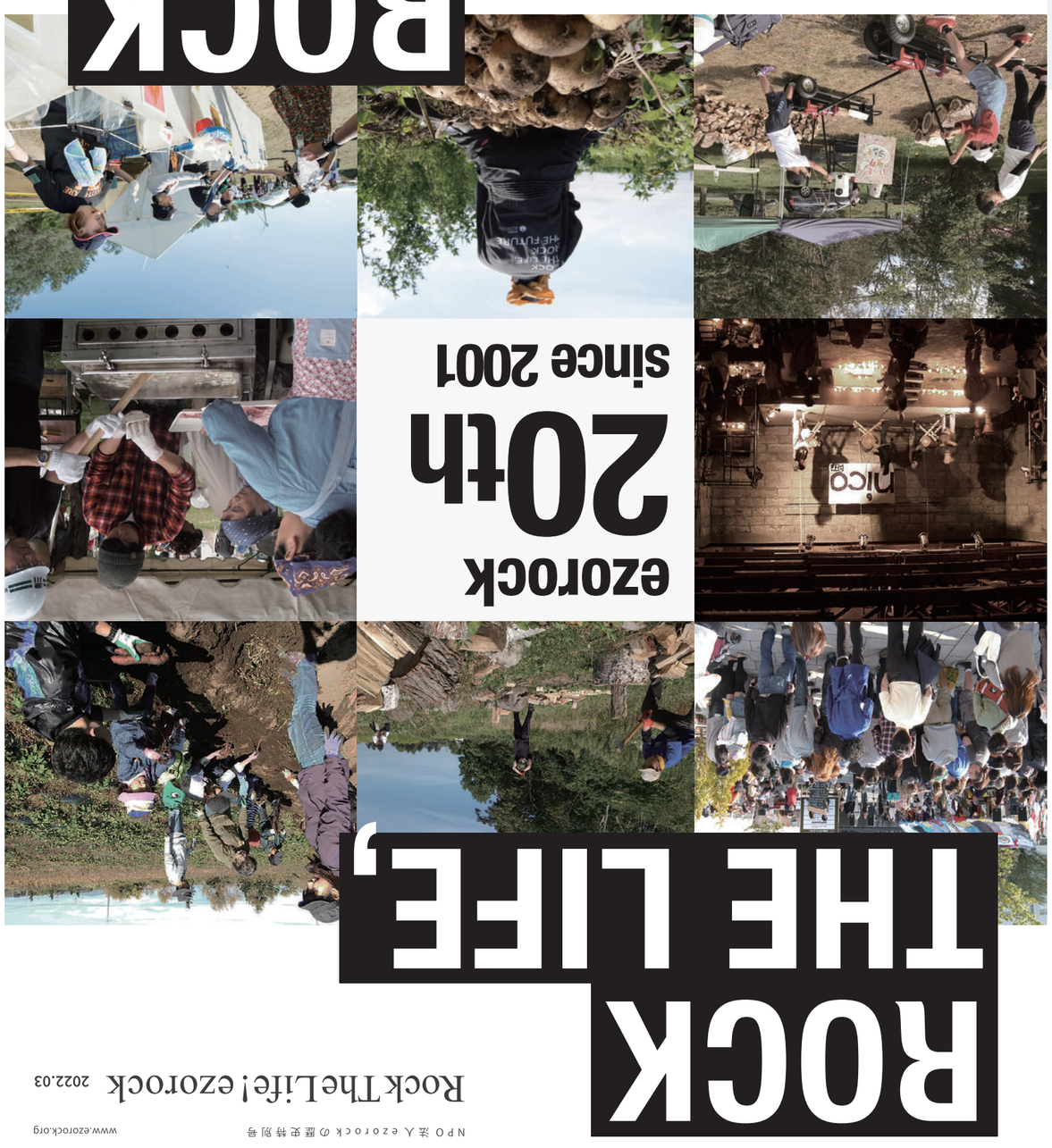
柿崎恵一 / 浜益支所地域振興課主査

年寄りにとって自分の経験を誰かに継承したいと言う気持ちがどこかにある。東日本大震災時、支援活動に全国から若者が駆けつけた中、それぞれの個性は強かったが、私と共に実に機敏に積極的に活動の中心になったのがezorockの若者達だった。私が彼らに活動を託し被災地を離れる朝、彼らが眠る部屋の窓に「孝弘はしなず、ただ消えるのみ、みなありがとう」の書き置きを残すと、彼らはそれをいつまでも壁に貼り残してくれた。

もんじい

ROCK THE LIFE,

ezorock 20th since 2001



NPO法人ezorockの歴史特別号 www.ezorock.org

Rock The Life! ezorock 2022.03

ezorock 2000-2021 History

2002~2005

伊藤麻純 まー

現在の所属：カナダ在住

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

ezorockが20年持つなんて、考えて無かったよね。団体名決めるときの投票は本当にびっくりだったし。11人いて10対1で、タケシだけ「ウエスに怒られるからecorockにしようよ」って言ってた。その前からチーム名で使ってたりしてたから、なんとなくみんな「ezorockでしょ」って思ってたと思うんだけどね。タケシ以外（笑）「特に日本だとマイノリティでいることがすごく難しいじゃん。同調圧力で、ゆるさん！みたいな。でも、ezorockがそれぞれの環境で地道な活動をしていくこと、そしてそれを肯定していくこと、それでもいいじゃん、ezorockらしくやろうって思いながらやってこれたのは、札幌のNPO業界とか活動家の先人たちを間近に見る、接することができる環境と機会があったからだと思う。10代、20代の前半で何をやっていたか、今思うと自分の今の暮らしに割と影響している。何をやっていたかと、その頃出逢った人たちは今でも大きな財産。

宮本奏 かなでぃ

現在の所属：NPOファシリテーションきたのわ

参加していた活動：ezorock事務局

今に繋がるこれまでの経験っていうのはezorockが1番大きい。自分が団体の代表していく中でもezorockの時はどうしたかなーと思い出すのよ。会議一つとっても、話し合いのシーンとか、何かを伝える時にはezorockでやってきた話し合いっていうのがベースにあるんだよね。やっぱりでも、この時期のEarthdayEZOが本当に大きくって。ezorockのメンバーだけではない大人の人たちと一緒に話し合ってイベントをつくりあげていくっていうことも大きな成果として見えるし、「ezorockってすごいね」って言われるわけよ。すごく必要とされているかもとか、私たちこんな力持っているんだねって気づけた。それはね、自信になっていったひとつだった。そしてその後も一緒に仕事したり、久しぶりに再会して最近どう？ってのは今でもあるから、深い関係性が作れたんだなっていう。あの時の出来事や経験は何だったんだろうなっていうのは、もうちょっと掘り下げてもいいかも。何がそんなに強い関係性を作ったんだろうかとか。

井下友梨花 みどり

現在の所属：社会教育関連（熊本）

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

最近「これからどうしようかな」って思って、立ち止まって考えた時に。いつが一番自然体だったかなとか、いつの時が一番自分として未来が明るいなって思ってたかなって考えると、結構大学時代だったような気もするんだよね。例えば、高校時代までは、分からないことを分からないと言わないでおこうっていう感じだったけど。ezorockでみんなが納得するのを大切にしようっていう感じで進めてたのがすごく衝撃的だった。一人一人の納得感とかを大切にしていて、一周回ってezorockを見たときに、すごいなあって思ってる。あとは、ボランティアコーディネーターの視点を持てたと思う。参加してる人が今どんな気持ちなんだろうとか、本当にいい時間が届いてるのかなとか。その視点はezorockにいたから身についてるなって感じるし、ezorockとかで感じてることを突き詰めて考えてアクションに変えていくって経験があったから、今の（熊本での）活動に関わってるんだと思う。

髙橋苗七子 ななこ

現在の所属：会社員（喜茂別）/ezorock理事

参加していた活動：ボラ旅北海道

自分がごりごりに引っ張っていくリーダーじゃないといけないって思ってたんだけど、でもすぐに、自分が全然できないっていう壁にぶちあたった。そんな時、まか（元事務局スタッフ）が「速くいくなら一人で行け、遠くへいくならみんなで行け」みたいなことを言ってて。そうしていったら、自分が思いもしなかったようなことができていくじゃん。結果的にその方がいいってことを納得しながら学んだ。刺さったのは、タケシの「ベクトルを自分にしか向けてない」って言葉。自分のことばっか考えているよねっていう。で、まさにそうすぎてむちゃくちゃ刺さった。そういうさ、誰も言わないことを行ってくれるよね、ezorockって。あと、私は孤独にさせられたことがないというか。あらゆる資源をさ、集めながらみんなでやってた。チャレンジできる場っていうだけだったらベンチャー企業でも出来るけど。その人の実力が無くても、寄せ合うことで違うものが出来上がる。不思議な場所だと思う。

2006~2011

小林彩佳 きゃん

現在の所属：公務員（東京）

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

よく思い出すのはね、ハイエースに乗ってRSRの会場に行くときとか。会話を覚えているわけではないんだけど、楽しかったなって。特にね、助手席が結構楽しくてさ。「最近どうよ」みたいな話になるじゃん。そういう話ができる場っていうのが結構いい。ミーティングではさ、勇気振り絞って発言した瞬間は何回もあったと思う。「何でもいいよ」とか「疑問に思ったことは出していいよ」っていうのは逐一言われていたから、心理的安全性のある組織だったと思うよ。そこから湧き上がる議論って大事だと思うし面白いじゃない？色んな人がいたよね。価値観が違う人が混ざるからこそ合わないし、意味わかんない！ってなるし。でもそれが逆に、心理的安全性にも繋がるというか。他の人と同じではなくていいっていうね。のびのびと過ごしていたと思う。何かが急に変わるわけでもなく、徐々に徐々にezorockの活動も含めて他の日常的なことも混ざって変わっていったんだと思う。

西脇宏伸 わっきー

現在の所属：NPO法人雨煙別学校

参加していた活動：ふくしまキッズ

まずはふくしまキッズ2012冬の振り返りの時かな。僕の周りにはボランティアも、色んな活動を手伝ってくれる大人の人も、支援してくれる人もいる。そんなこと考えないで、ただ自分が楽しい、気持ちいいだけで活動してたんだろ？って振り返りで言われた。すぐ変わったって感じでは無いけど、自分が前に出ればいいだけじゃないってことをめちゃくちゃ大事にするようになった。もうひとつは、大沼で活動中に教員採用試験の結果発表があって、自分の受験番号が無くて。いぶり自然学校の上田さんに「わっきーくん、こちらの世界へようこそ」って言われたのが、一番吹っ切れたというか。教員じゃない道を目指してもいいかなって思ったのがそのタイミング。ezorockは、ボランティアの僕らにチャレンジさせてくれる場を用意してくれていて、ステップアップをさせてもらえたのかなって思っている。立場によって視点はやっぱり色々変わるよね。毎回色んな視点で物事を見れたのは大きいかな。今の職場にも繋がってるし。

林亜希 あき

現在の所属：会社員（福島）

参加していた活動：ふくしまキッズ

自分が福島出身で、震災も経験しているのもあって、ふくしまキッズに関わってみたいなと思いました。あと、自分が昔から海に行ったりとか木登りしたりとか自然に触れて育ってきたのもあって。そういう楽しさを知ってほしいなっていうのもあって参加しました。活動して、震災って子どもにとってすごく衝撃的だったんだなって。お土産買っても「非常食にする」って言っていたり、心のケアも必要なんだろうなと感じました。今振り返ると、そういう活動に社会人になってから関わる機会もあまりないし、すごく貴重な体験だったんだなって思います。こういう活動に参加しなければ、こんな経験はできなかった。活動中、裏方をやっていた時は「現場を把握して他の人に指示を出さないといけない」みたいな状況があって、それは社会人になって身に染みる。人に指示をしないといけないときがあるので。あまり名言らしい言葉は浮かばないですけど（笑）

2012~2015

松山由実 ゆーみん

現在の所属:会社員（岐阜）

参加していた活動：石狩体験キッズ「チポロ」/浜益ベース

チポロの現場整備で草刈りして、それまでは入れなかった森に子どもたちが入って行って「ここ楽しい！遊べるよ～」って言ってたのが衝撃過ぎて。私がやりたいことってこういう事だったなって思った。山に価値をつけるって、こんなに地道な作業だけど出来るんだっていう。あとてつと、私は森が好きだし、将来は森とか自然を繋ぐ人になりたいって話していた時に「それは私だけがやりたいことなの？社会を変えたいことなの？」って言われた。そんな大それたことなんにも考えてへんわって思いながら帰るっていう。でも未だに自問自答している言葉。もうひとつは、浜益の文化祭。それまでは、普通に良いところしか見えてなかったんだけど。バス2台におじいちゃんおばあちゃんが乗せられて運ばれてきて、現実を見たというか。良くも悪くも浜益ってこういう地域なんだなって思った瞬間に、私はここで色々やりたいなと思った。浜益で何かをやりたいなと思ったポイントですね。

田中慎之介 しんちゃん

現在の所属：大学院生

参加していた活動：179リレーションズ

思いつくのは、初めて標津町の活動に行った時。他の参加メンバーは、標津の人に何回か会ってる状態で、自分だけ初めての人間って状態だった。で、標津の人たちとの関係を見ていて、長く関わってるとこういう風になるのかなって思った。正直、距離は遠いし行きにくいけど、そういう関係ができるんだなってことを目の前で見た気がして。それまで人付き合いって面倒くさいイメージしかなかったけど、なんかいいなぁって。そこで、ここに関われるところまで関わり続けようかなって思い始めたんだと思う。ezorockは、初めて近い感じで、受け入られてるんじゃないかなっていう感じることがある。厚真町の農家さんから「何かあればいつでも来て」って言われていたり、たまーにふらっと顔出した時に名前呼んでもらえたり。今までそういうのなかった。

2016~2017

八木一馬 キング

現在の所属：NPO法人いぶり自然学校

参加していた活動：石狩体験キッズ「チポロ」

チポロに入って面白そうだと思って続けようと思ったら、一緒にやってたメンバーが「来年はコアではやりません」みたいなこと言って。おお、まじかってなってる時に「あんた口ではやりたくなさそうなこと言ってるけど、めちゃくちゃリーダーやりたさそうだよ」って言われて。そうなんだ、じゃあやるかって思った記憶がある。それがリーダーをやる時のターニングポイント。あと、あそこまで原体験を言語化する機会は、ああいう場が無かったらなかったね。大切なのは、原体験があって、大学生になってから出会い直して。それをまた言語化したりとかってことが今の仕事にすごく繋がってる。それは間違いなくezorockで過ごした時間なんだよね。名言でいうと、入ってすぐ位の時に「お前変だよなって言われて、喜んじゃう奴がだいたいezorockに長くいる」ってタケシに言われて。そこで、「お前は喜んでたぞ」って。

2018~2019

國塚篤郎 くに

現在の所属：会社員（札幌）/ezorock理事

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

瞬間、瞬間にしか接点がないから、ある意味接点になった瞬間は全部新鮮だと思ったし、そういった形で継続的にezorockに関係させてもらえるというのも、組織の懐の深さだなと。もちろん理事としてやるべきことはやるつもりでいるけど、そんなに影響力を行使する立場でもなく、そうする気もない。そんな関わり方の自分がいる一方で、自分の全リソースを投げ打ってやってくれる人たちがいる。そういう両極のあり方が共に許容されるっていうのはなんかすごいとだなと思う。いろんな人の入れ替わりがあったりして、固定した関係性に固執しないのも面白いかな。理事をやらせてもらって長いんだけど、最初は自分役に立ってるのかなって感じでいまだに不安に思う時はあるものの、逆にずっといないからこその違う視点を持ちこめるっていうポイントに、逆に存在意義ってあるのかなって思い始めてる。あとは、自分のキャリアの中でもいくつかターニングポイントがあって、その時々に合わせて、こちらとしても組織をうまく利用させてもらってるところはあると思う。そういうのは端的にありがたいなーと思います。

浅野目洋平 よーへー

現在の所属：NPOスタッフ（札幌）

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

やっぱり影響っていう意味ではあるよね。楽しくてやってたし。多感な時期というか、その頃にラジオとかもそうだけど、経験できないような経験が出来たことは今にも生きてるし。それまで普通に中高校生の頃は"マジョリティ"な価値観とか世界観しか知らなかったけど、それ以外にも道はあるんだみたいなことを知ったり、一緒に活動する仲間とか、心強い経験とかっていうのがあるのはめちゃくちゃでかいと思う。良いものは良いという信念を持って動くことに自信を持てるようになったのはでかいなって。それはOBOGたちと再会した時にも感じる。普通に一般企業で働いてる人もいっぱいいるけど、そうじゃない割合も、中学高校の同級生に比べたら圧倒的に多いだろうし。すごく生き生きしてたりとか、面白いことやってるなみたいな。なんかエネルギーがちゃんと燃えてる生き方してるなっていう人も多い気がする。ROCK THE LIFEしてるなって、活動していた人たちに対して思う。

高橋優介 ゆーすけ

現在の所属：ワークショップデザインdescribe with

参加していた活動：ポロクル

周りの人が楽しそうにやっているとか、人と人が真剣に話していることとかが日常で起こっているのが新鮮だった。今までなかったから、こういうのもあるんだーって。あと、タケシに言われた「きっかけはなんでもいいんだよ」って言葉があるんですけど。人にとってきっかけはバラバラだから、特にやることないならまずやってみたらいいんじゃないっていう。それが僕にとってはキーポイントでしたね。まずやってみるのがすごく大事。最近も、まずやってみようって動いてる人は、その先の選択肢が広がったりしている。それは、周りで一緒に振り返ってくれる人とかサポートしてくれる人とかがいるっていうのもありますね。だからこそ、できるんだなって。そう意味で、ezorockの環境はすごかったなって思います。ezorockって繋がり続けて色んな刺激を貰っていく場としての価値もすごくあると思う。過去に活動していた人も、もう一回ezorockにアサインしてほしいなって思いますね。

山條力矢 じょー

現在の所属：公務員（古平）

参加していた活動：大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

最初に旭岳に行った時、自分は自然環境の勉強をしているって立場だった。そんな自分が、受け入れスタッフである自然保護監視員の方々に、自然は守るというよりは未来に残すものだよねって言われた。「守る」だと上から目線になっちゃう。だから共に生きて未来にいいものを残していきましょうっていう方向に意識が変わったのを覚えている。監視員の方は助けが必要ない状態で、わざわざ素人のボランティアで何かできることがあるのかっていうところから探っていて。そんな時に監視員の方から「こっちも色々成長ができてありがたい」って言われた時は、嬉しかったな。自然は守らなきゃいけないみたいな朧気なイメージが、自分の中で具現化された活動だったと思う。ezorockの影響は受けているけど、一緒に試行錯誤しながらやってた感があって、ピンポイントで突き刺さるというよりは、雨が降ってるみたいな。自分の中の土壌には至るところにezorock成分とか大雪山成分はある。

崎川哲一 てつ

現在の所属：ezorock事務局 / 合同会社森のピタゴラス

参加していた活動：ふくしまキッズ / プロジェクト「NINOMIYA」

やっぱりふくしまキッズかな。初参加の時、10日間食事を作り続ける食（事）担（当）にいまして。子どもと会う瞬間なんて配膳の瞬間だけで、今じゃ考えられない劣悪で辛い環境の中でやっていたんだけど。そんな中でも、ボランティア全員なんか爽やかなんだよね。活動を楽しむけど真面目に誰かに尽くすっていう、活動の根源というか。最後の最後に子どもに「てつありがとう」って言われて、「俺はこのために10日間やってたんだ」ってえらい腑に落ちたんだよね。やってきたことがぴたっと見えた気がして。冗談抜きで世界が輝いて見えた。これが無かったら俺はNPOとかボランティアとか気持ち悪いと思ってたね。あとは、NINOMIYAかな。本当に過酷というか。俺の中では辞めちゃうくらいに辛かったんだけど、そこまで頑張ったことって何かを生んでたんだなって。あの瞬間バカになって頑張っていた結果、信頼を生むし。額に汗かいて頑張ることを学んだターニングポイントでした。

山根静夏 しぃちゃん

現在の所属：会社員（札幌）

参加していた活動；ポロクル

ピンポイントでどこがターニングポイントだっていう話は難しいんですけど。普通に生活してきて、小中高校大学行って、そこでは言われた通りにお勉強してたっていう感じがして。ezorockに入って、まず視界が広がった。色んな出来事があって。こういうことも出来るんだ！っていうのを知れたし、自分に何ができるのかとか、あと、色んな人がいて。そういう色んな人がいる中でどうやって進めていくかっていう段取りとかコミュニケーションとか。そういうのを全部学べた気がしていて。で、社会人になって職場に行ってもそれはすごく大事なことだなって思ってて。なんか、うまく言えないんですけど。取り組む課題に対してどう考えるかっていう考えるチカラはezorockで鍛えてもらったなっていうのはすごく感じている。感謝してます。あとは、誰かがバチバチやってるのが私のezorockのイメージ。どっかで常に誰かと誰かがぶつかり合ってる。本音のどつきあいをしているイメージ。

水谷あゆみ たに

現在の所属：ezorock事務局

参加していた活動：プロジェクト「NINOMIYA」

私は、厚真町教育委員会の斉藤烈さんに地震があって2年後くらいに「こんなに会ってるのezorockの人くらい。友達よりezorockの人の方が会ってる」って言われたこと。災害があった時に自分が置いてきぼりだった感覚が、その言葉で「時間が経ってるんだ」ってすごく思わされて。めっちゃでかかった。地震があってから毎日厚真に通ってた1か月間くらいが一番辛くて。日中活動している時の非常時の感覚と夜に札幌に帰ってきた時の日常のギャップが激しくて。でも、自分は通ってるから厚真に滞在している時間って結局は、ぎゅって短くしたら何日かしかないじゃないですか。でも、実際厚真の人たちは何年も生きてるみたいな。でもその一言で「そうか動いてるんだな」って思ってなんか吹っ切れたというか。これから新しい関係を築けばいいんだっていう。厚真での活動が今の179リレーションズにはすごく影響してるし、厚真との関係がその言葉ですごく変わったっていうのが、とても大きい。

00

- RISING SUN ROCK FESTIVAL 2000 in EZO（以下、RSR）にて国際青年環境NGO A SEED JAPANが環境対策活動を実施

01

- A SEED JAPANごみゼロナビゲート北海道チーム「ezorock」設立 以後、RSRにて環境対策活動を実施

02

- 初事務所 炭労会館（北海道NPOサポートセンターに机を借りる）

03

- 電気をなるべく使用せずキャンドルの灯りで楽しむ音楽祭 自主企画nico※1 実施（～2009）

※1 主催音楽イベント。冬至に合わせて電気をなるべく使用せず、キャンドルの灯りで楽しむ音楽祭。

04

- RSRにてフェス史上最強の13分別の開始

05

- さっぽろ村コミュニティFMにて「Rock The Life ezorock」のラジオ放送開始

06

- 環境NGO ezorockに改称・事業化 代表理事草野竹史就任
- www.ezorock.orgのWEBサイト運用開始
- 初の個室スペース事務所となる市民活動スペースアウ・クルへ移転

07

- RSRオーガニックファーム※2 開始
- Earthday EZO※3 実行委員会事務局となる（～2011）

※2 RSRで出る生ごみを堆肥化し、その堆肥をつかってオーガニックじゃがいもを栽培。じゃがいもはRSRの来場者に再び戻る。

※3 地球環境について考える日として提案された記念日Earthdayに合わせて環境問題に関するイベントを実施する北海道事務局を担った。

08

- 50年後の未来を考える Vision 2050※4 開始（～2011）

※4 洞爺湖サミットをきっかけに立ち上がった50年後の未来を考えるチーム

09

- RSRで古々米（食べられなくなった米）を使用したごみ袋の配布開始（～2016）
- 内部メンバーの連絡ツールとして、団体専用SNSの運用を開始（～2012）

10

- Rock The Farm-新琴似ふれあい農園-※5 実施（～2011）
- ポロクル※6 実証実験実施（2011～本格始動）

※5 新琴似にある市民農園の運営管理を通して利用者と世代間交流をするプロジェクト

※6 札幌中心部で実施しているシェアサイクルの管理を行うとともに、自転車のルールマナーの啓発活動なども担う

11

- 現事務所へ移転（初の一軒家）
- 釜石支援※7 開始（～2012）
- ふくしまキッズ※8 北海道ボランティア事務局開始（～2015）

※7 東日本大震災で被害があった岩手県釜石市の復興支援活動を実施

※8 東日本大震災の原発事故被害があった福島県の子どもたちを長期休みに全国で受け入れ、自然体験活動を実施。ezorockは北海道のボランティア事務局を担った。

12

- レコードシェアリング事業RECO※9 始動（～2014）

※9 家庭で不要になったレコード回収し、世代を超えたコミュニケーションツールとして新たなつながりを創出するプロジェクト

13

- 法人格を取得し、環境NGOからNPO法人ezorockへ
- 2009年から運用していた団体専用SNSをSalesforce chatterへ移行
- 2009年から休止していた定例会議（内部の全体会議）を復活させる

14

- ボラ旅北海道※12 開始（～2019）
- 1プロジェクト2スタッフ制（コーディネーター+リーダー体制）の実施

※12 都市部に住む若者が道内各地の環境問題や地域課題をその地域の方と一緒に解決する活動

15

- プロジェクト「NINOMIYA」※10 開始
- Hokkaido youth sessions GREENDAY※11 開始

※10 未利用材とよばれる未活用の木材資源を使用した薪づくり、および薪の販売を実施

※11 北海道や世界を舞台に活動する方々をゲストにさまざまなテーマの講演会、ディスカッションやアウトプットも取り入れた研修事業。

16

- ふくしまキッズの後継として、石狩体験キッズ「チポロ」※13 開始

※13 石狩を中心に、子どもを対象に自然体験の"機会"と"場"を提供するため活動

17

- ezorock写真展実施（～2016）

18

- 北海道胆振東部地震支援活動実施
- 平成30年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰受賞

19

- 澄川乾燥野菜研究所Sumi Lab※14 始動（～2020）

※14 防災のまち澄川で長期保存ができ、防災に役立つ乾燥野菜の普及活動を実施

20

- ボラ旅北海道から179リレーションズ※17 へ
- 新型コロナウイルス感染症対策として、ミーティングの原則オンライン化の実施

※17 道内179市町村で実施している持続的な地域づくり活動とその活動に関わりたい人の入り口を作る活動

21

- 浜益リレーションズ（現浜益ベース）※16 開始

※16 石狩市浜益区で活動拠点「はまますベース」に滞在しながら地域の人たちと都市部に住む若者がさまざまな課題解決に取り組む

- 団体設立から20年

メンバーの対談集はWebで公開中！▶